

## 機関リポジトリ設立時の諸課題「片手間にやるリポジトリ」

横浜国立大学 図書館・情報部 図書館情報課 図書館企画係  
久保いくこ

### 1. 学内合意を取り付けよう

#### 学内合意 (註1、2)

- ・リポジトリは、図書館内の事業ではなく、全学事業だ。
- ・予算を獲得するためにリポジトリ立ち上げ前に合意を取る。  
or リポジトリで成果をあげてから承認を取る。
- ・トップダウン or ボトムアップ

#### 横浜国立大学の平成18年度の動き

- 4月 他大学のリポジトリ運用指針と委員会内規を参考に部長が本学版を試作。
- 4月 サーバ購入の見積とコンテンツ電子化の見積を複数業者に依頼。
- 5月11日 機関リポジトリ検討ワーキンググループ打合せ。
- 5月16日 附属図書館運営委員会がリポジトリの構築計画とCSI委託事業への公募を了承。
- 5月25日 学長決裁をとって、CSI委託事業応募書類を発送。
- 7月12日 研究担当理事にリポジトリの説明をする。
- 7月13日 教育研究評議会にて「学術情報リポジトリ運営指針」を決定。  
学長名で「学術情報リポジトリ運営委員会規則」を制定。

#### リポジトリ構築計画のポイント

- ・「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」を引用して説明する (註3)
- ・リポジトリは大学の成果のショーケースとなる
- ・産学連携を促進する
- ・登録内容が国立情報学研究所の学術ポータルサイトで検索できる
- ・オープンアクセスの推進
- ・学術雑誌価格高騰への対抗

課題： 毎年アピールを続けないと、忘れられてしまいそう。

### 2. 予算を獲得しよう

#### 予算の使い途

- ・サーバとソフトウェアの導入と保守
- ・ソフトウェアのカスタマイズやシステム開発
- ・コンテンツの電子化、メタデータの作成、サーバへのアップロード
- ・広報費や消耗品

#### 予算の確保 (註4)

##### 外部資金

国立情報学研究所「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 学術機関リポジトリ構築連携支援事業 平成20-21年度委託事業」 (註5)

##### 学内資金

- ・図書館運営費 …… 生活費で手一杯。
- ・図書館資料費 …… 図書と雑誌用。
- ・学内の競争的資金 …… とりあえずこれが欲しい。

課題： リポジトリ予算を運営費に組み込まれた安定した予算にしたい。

参考： 「予算獲得もまた楽しい」(お茶の水女子大学 茂出木理子氏) (註6)

### 3. 誰が担当する？

どの係が担当するか

A. リポジトリ専用係を置く。

B. どこかの係が兼任する

- ・システム管理担当
- ・雑誌担当
- ・ILL担当
- ・電子化担当
- ・総務担当

C. 全館体制、ワーキンググループ

どこで学ぶ？

- ・国立情報学研究所「学術ポータル担当者研修」
- ・DRF メーリングリスト、ワークショップ

課題： 担当者が異動したら、どのように引き継いでいくか。

### 4. システムを導入しよう

システムを導入する

大学で自前のリポジトリを導入する or 地域リポジトリに参加する  
大学で導入するなどのシステムにするか (註7)

- |                  |           |      |
|------------------|-----------|------|
| ・DSpace          | オープンソース   |      |
| ・EPrints         | オープンソース   |      |
| ・XooNips (ズーニプス) | 国産オープンソース | (註8) |
| ・E-repository    | 商業製品      |      |
| ・Infolib-DBR     | 商業製品      |      |

オープンソースならどうするか

ケース1：図書館職員はプログラムが分からない

- ・導入支援業者にインストールしてもらう。(サーバも見繕ってもらう)  
or オープンソースをパッケージ化して売っている業者から買う。
- ・カスタマイズは業者に頼む。  
or システム更新を考慮してカスタマイズは極力しない。
- ・コンピュータ言語やデータベースの知識が必要だから学ぶ。

(例)「持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造」 (註9)

ケース2：プログラマー図書館員がいる。

- ・自力でインストールできる。
- ・どんどんカスタマイズできる。

サーバの管理をどうするか

横国大ではサーバを情報基盤センターに預け、バックアップテープの交換など日々の管理を任せている。それ以外の操作は保守業者に頼んでいる。

地域リポジトリに参加するなら

A. SHERPA-LEAP型 (大学ごとに独自のURLを持つ) (註10)

B. 白ばりリポジトリ型 (同居する大学はみな同じURL) (註11)

課題： 5～6年経ったらシステム更新するのか？

## 5. 論文を集めよう

リポジトリに何を登録するか

- A. 学術雑誌論文 …… Serials Crisis、Self-Archiving、Open Access (註12)
- B. 紀要論文 …… 平成14年からNIIで研究紀要公開支援事業が始まった。
- C. 学位論文 …… 電子図書館の時代から電子化されてきた
- D. 大学の特色あるコレクション
- E. 図書館が所蔵する貴重書 …… 電子図書館の時代から電子化されてきた
- F. Open Course Ware …… 一部で始まっている。

著作権

複製権 (著作権法第21条)、公衆送信権 (同第23条) (註13)

著作権ポリシーを調べる

- ・日本の学協会ならSCPJ (註14)
- ・欧米の出版社ならSHERPA/RoMEO (註15)

論文の提供を募るための広報活動

- ・説明会開催
- ・教授会で5分か10分くらい宣伝させてもらう
- ・研究室を訪問
- ・チラシ配布
- ・グッズ配布
- ・学内広報誌に記事を投稿する

A. 学術雑誌論文の集め方

◆狙い撃ち型

Web of ScienceやScopusの検索結果を基に、著者に論文提供を依頼する。

◆待ち受け型

教員から図書館へ論文を送ってもらい、図書館で著作権ポリシーを調査。

◆義務化型

(例) 北陸先端科学技術大学院大学の「JAISTリポジトリ充実計画」 (註16)

B. 紀要論文の集め方

- ・遡及分はNII電子化紀要を入手。カレント分は印刷屋PDFを入手。

C. 博士論文の集め方

- ・修了生に郵便で依頼文を送る。
- ・学務窓口で大学院生にリポジトリ登録許諾書を配ってもらう。

D. 大学の特色あるコレクションの集め方

- ・著者が図書館総合展で講演していたので、当日許諾書を持参して聴講。

課題： 紙の許諾書を書いてもらう必要はあるか？

## 6. 登録しよう

誰が登録作業を行うか

図書館員がアップロード作業を行う or 教員によるセルフアーカイブ

PDF作成

- ・最近のものは電子ファイルで入手できることが多いので、電子化費用がかからない。
- ・紙からスキャンした場合に、透明テキストを付けるかどうか。

メタデータ作成

- ・北大のHUSCAPにはDOIを入力すると書誌が自動的に取り込まれる機能がある。

アップロード

- ・横国大のDSpaceでは一括登録時に少しかLinuxコマンドを打つ必要がある。

課題： 論文の提供があるたびに即時登録ができるようにしたい。

註

1. 尾崎文代、上田大輔（広島大学図書館学術情報リポジトリ主担当）「機関リポジトリの導入戦略」平成20年度学術ポータル担当者研修、2008. 7-8。http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h20/curritxt.html ※学内合意や運営体制についてのアンケート結果が興味深い。
2. 大西直樹（大阪大学附属図書館情報サービス課専門員）「学内合意形成と組織体制」平成17年度CSI委託事業報告交流会、2006. 5。http://www.nii.ac.jp/irp/event/2006/debrief/index.html ※リポジトリ立ち上げ前に学内合意を取った例
3. 「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会、2006. 3。http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm  
※62ページに機関リポジトリの推進が謳われている。
4. 三上豊（弘前大学学術情報部学術情報課資料管理グループ）「弘前大学における機関リポジトリの取り組み」DRF/Share-Yamagata・DRF/Share地域ワークショップ（北海道・東北地区）、2008. 12。http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF%2FShare-Yamagata  
※経費確保について詳しく書かれている。
5. 国立情報学研究所、学術機関リポジトリ構築連携支援事業。http://www.nii.ac.jp/irp/
6. 茂出木理子「大学図書館の可能性：お茶大図書館『ラリルレロ』の展開（第49回中国四国地区大学図書館研究集会における基調講演講演要旨）」中国四国地区大学図書館協議会誌、2008. 10。http://hdl.handle.net/10083/32945
7. 菊池満史、阿藤品治夫（国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課）「リポジトリ・システムの現状—どれを選ぶか—」平成18年度学術ポータル担当者研修、2006. 7-8。http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h18/curritxt.html
8. 「半歩先ゆくリポジトリ—もう一つのIR—」大学図書館問題研究会出版部、2007. 1。  
※XoNIpsについて詳しく述べられている。
9. 代表機関：九州大学、連携機関：佐賀大学 長崎大学 熊本大学 宮崎大学 別府大学「持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造」学術機関リポジトリ構築連携支援事業平成20年度委託事業領域2。http://rd.lib.kyushu-u.ac.jp/projects/show/csipeople
10. SHERPA-LEAP Repositories http://www.sherpa-leap.ac.uk/
11. White Rose Research Online http://eprints.whiterose.ac.uk/
12. 倉田敬子『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房、2007. 8。
13. 黒沢節男「機関リポジトリと著作権Q&A」広島大学図書館、2008. 3。http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00023065
14. SCPJ 学協会著作権ポリシーデータベース http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/
15. SHERPA/RoMEO http://www.sherpa.ac.uk/romeo/
16. 寺田美樹（北陸先端科学技術大学院大学学術情報サービス室学術管理係）「日本の機関リポジトリとそのテーマ2008：事例発表 ～JAIST学術研究成果リポジトリの充実計画～」、第4回DRFワークショップ「日本の機関リポジトリとそのテーマ2008」、2008. 11。http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF4